

会 議 録

1 会議名

令和2年度第5回八千浦区地域協議会

2 議題

【報告事項】

地域協議会会長会議について（公開）

【協議事項】

自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和2年12月2日（水）午後6時30分から午後7時30分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、伊倉幹夫、笠原幸博、
坂詰喜範、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、渡辺孝三郎、渡邊修一
（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：柳澤委員、渡辺孝三郎委員に依頼

議題【報告事項】地域協議会会長会議について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

11月25日（水）に開催された「地域協議会 会長会議」の内容について報告させていただきます。

・資料No.1「地域協議会会長会議 次第」、「令和3年度地域活動支援事業について（案）」に基づき説明

【仲田会長】

副市長の講話の中で、上越市における地域協議会の特徴は、「委員の選出は公募公選制」、「自主的審議事項が地域協議会の性格として、これを有効に使うことで各地域の活性化等に資するようにやって欲しい」、「地域協議会は事業主体になれないので、市と対立せずに協議をしていく」ということを強調された。これは、今までの地域協議会の審議のあり方についても、いろいろな意見があるのではないかと考えている。特に自主的審議事項のテーマの決め方について、どの協議会も、どういうテーマがあるか、地域の課題や活性化について絞り切れないというのが実情である。特に町内会長協議会等との調整や連携をどのようにしていくのか分からないという意見が出された。

私からは、地域の特性として八千浦区は海岸線が長いこと、地域全体が県道、国道に沿って町がつけられているので、市の政策に限って自主的審議を行うと課題が広がっていかないという課題があることを伝えた。

地域協議会会長会議の説明について、質疑を求めるがなし。

次に、【協議事項】自主的審議事項についてだが、前回の会議では海岸のごみの問題について議論した。だが、なかなか前が見えないので、これについては一旦終了し、また再度考えようということになっているので、この辺も含めて意見を求める。

【坂詰委員】

八千浦交流館はまぐみから出たところの海岸線沿いの道に、長年にわたって草が生えており、道幅が狭くなって危ない。しかし、そこは県や国、市が入り組んでいる土地なので、前回、八千浦区の自主的審議事項となっていた跨線橋の協議の際も草刈りをお願いした経緯があるが、ハマグミの木も植えてあり、それも大きくなって、松の枝も道路のほうに被ってきており、事故がないのが不思議なぐらいである。

海岸線沿いの道は釣り人が通るが、株式会社JERAやインペックスに入るところの十字路までは30キロの速度制限があるが、そこから西ヶ窪浜に向かうまでの道路は道

幅が狭く、速度制限も設けられていない。散歩をしている人もいるので危険である。

あの辺を八千浦区の海を守る意味でも綺麗にできないか。

【仲田会長】

今、坂詰委員から話があった件で、株式会社 J E R A と東北電力株式会社から出てきたところに変則十字路がある。あの交差点から西側は 30 キロ規制がされているが東側は規制がないので、出入りする時に事故が起きるのではないかと非常に危惧している。私のところに交通規制がかけられないかという相談もきている。

地域としても、八千浦交流館はまぐみから海岸線沿いの道路に出ていくと下り坂で、事故がないのが不思議なぐらいである。釣り人もこれからシーズンになればオープンまで非常に長い列を作る。その辺について少し掘り下げていく方向で皆さんからご意見を伺いたい。

【大島副会長】

私は仕事で直江津港に行っているが、直江津港近くの公園の通りに金曜日あたりから釣り人がたくさん来る。そこから海岸線沿いに入る道路と八千浦交流館はまぐみへ向かう道路、旧国道 8 号線に入る道路の車の出入りが非常に激しい。トラックや業者はルールを守っているが、釣り人は強引に入ってきたりして、冷や冷やすることがある。

10 年ぐらい前に私の妻が、その道路で車と衝突するという事故も起きている。特にあの辺は信号も何もないから何を基準にして進行したら良いのか分かりづらいと思うので何とかしてほしいと思っている。

【仲田会長】

他にあるか。

【坂詰委員】

海岸線のごみ問題は終了という話だったが、八千浦区の住民の方々は毎週、自主的にごみ拾いをしてくださるということを知った。最近 SNS 等で釣り人にもごみ袋を提供するので手伝ってくれないかと呼び掛けをするというような内容のものをみた。八千浦区でも、それが SNS 等で広まって釣り人も、魚釣りをさせてもらっているからごみ拾いを手伝おうという雰囲気になってくれれば一番理想である。

例えば、住民の人からごみ拾いをしていただけるのであれば、サーファーの人たちが、それを見て手伝ってくれたとか、釣りに来ている人が一緒になって歩いて手伝ってくれて親交を深めたとか、そういうニュースを目にしたりするので、ごみに関しては、そう

なったらいいなという理想はある。

草や道幅の問題、交通規制に関しては、これから季節風によって砂が大量に飛び、道幅2車線が1車線になっている。その砂を処理してもらってはいるが、雨が降ると塩分がなくなり、そこに種が落ちて草が生える。そして道幅が狭くなる。今はまだ取れるが真夏の時期になると先が見えないと思うぐらい生えて見通しが悪くなる。また、今犀潟のほうで下水道の工事をしているため、知っている人は朝の通勤時に通ったりする。天気の良い日は八千浦区の人たちが、あそこを散歩したりするので、事故が起きないか心配している。砂も県が取るのか、市が取るのか。定期的にとってもらえば多分草も生えないと思うし、道路幅も狭くはならないのではないかと。

コロナの時期に県外者が何故こんなに来るのか、それも規制してくれないかという話を聞く。先ほど仲田会長が言ったように第3突堤がオープンする時は長蛇の列であり、車のナンバーを見ると県外者が多い。屋外だから良いというものではなく、やはり地元等の関係で少し遠慮して、いつもの半分程度にしてもらう等の検討や対策が取れないか。八千浦区の人たちが安心して住めるまちづくりを目指すというのが一つあるので、皆さんからも知恵を出してもらいたいと思う。

【柳澤委員】

私は西ヶ窪浜の道路を自転車で走るが、事故が起きないのが不思議なぐらいである。あそこは自転車でもなかなか通れない。対向車もくるし、歩行者も避けて通っている。

また、歩道の砂は取っているのか。自転車で通る時は手で押して通っているし、砂があって1車線しかない。

【渡邊修一委員】

行政で砂を取っていると聞くと聞くと、いつやっているのか不明である。

【柳澤委員】

業者が取ってくれているとは思いますが、すぐに溜まってしまわないか。

【坂詰委員】

ハマグミもせっかく植えているから枝を切るのはもったいないように思うが、結構横に伸びている。

【仲田会長】

やはり当地区にとって海岸線が一番関心が高く、何とかしたいという意見が出ている。他にも国・県の事業でも結構である。例えば、保倉川放水路もあるし、県道の改修や

側溝の整備等、我々のまちづくりにとっては切り離せない課題である。必ずしも市の事業にこだわることはない。

実は、保倉川放水路については大まかの法線が決まったようで、今週中に漁協関係への説明があるということ。これについては今まで地域協議会で保倉川放水路計画の進捗状況等について報告を受けており、具体的な法線が決まれば、特に遊光寺浜・夷浜あたりに橋が架かると思うので、まちづくりにとっては非常に関心がある課題になると思っている。上越火力発電所建設の際に移転された皆さんに直接影響が及ぶようなところに出てくるのかという気もするので、地域のまちづくりにとっては課題になるかと思う。

保倉川放水路の進捗状況についてと橋の建設等については、関心を持っていく必要があると考えている。

大きいテーマとすれば、少子高齢化について考えるということもできる。他にも青少年の問題やまちづくりに子どもたちの参加をどうするかとか、いろいろな課題もあると思う。地域の祭りや、学校の子どもたちの安全安心等の課題もあるかと思うので、何かあれば提案していただければと思う。

【坂詰委員】

今、仲田会長がおっしゃった保倉川放水路の件だが、八千浦区で商売をさせてもらっていて強く感じるのは、かなり高齢化が進んでいるように思う。なので、保倉川を起爆剤にして八千浦区の新しいまちづくりができないかということ仲間と話している。私も小さいころから60年住んでいるが、八千浦区の真ん中に川が通るような事を思いもしなかったし、嫌なことである。もしできるなら、川が通ったことで八千浦区がこんなに良くなったと言われるように地域協議会や団体の役員のみんなが頑張って、「防災に強い、綺麗で住みやすい」というようなまちをつくれたら理想だと思っている。たが、そんなに一概にはできないと思うので、今から準備して、将来の八千浦区の再開発みたいところを考えていったら、それはまた面白いのかなと思う。ただ、それはかなりの犠牲を伴って賛否があることだと思うが、高齢化が進んでおり、空き地や空き家になっている町内が多数ある。家があるのに人がいないのは本当に寂しい。八千浦区で商売できなくて店をたたむ人もたくさんいる。

寂しいと思っているのが実感なので起爆剤になってくれたら良いと思う。

【仲田会長】

坂詰委員がおっしゃったのは非常に大事なことである。上越火力発電所建設の時に、

八千浦区のまちづくりの青写真があった。その青写真に基づいて、八千浦交流館はまぐみも建設されたので保倉川放水路が通るとなると、まちづくりが変わってくるので当然見直していかなくてはいけない。あの青写真がまだ生きていると思うが、地域のまちづくりとしてどうするかを自主的審議事項の一つのテーマにしても良いのではないかと思っている。

これについての意見はどうか。

【羽深委員】

保倉川放水路の話は、確かに地元とすれば放水路を造ることに犠牲を払うところも多々あるかと思う。地元としても当然協力していかなければいけないと思うが、協力するかわりに放水路を造ることと併せて公園や若い世代が楽しめるようなスペース、子どもたちが集まって来るような施設を一緒に造ってもらうことを地元として提案していったら良いのではないか。全国を見ても、例えばダムを造ったり、放水路を造ったりすることに対して、いろいろな施設で成功しているという事例が幾つもあると思う。放水路を造ることはもう決まっているだろうから、それと同じように、そういった起爆剤みたいなものを地元から提案していくべきではないかと思う。

【仲田会長】

非常に素晴らしい提案だと思う。地域に密着した課題と八千浦区に放水路が通ることによるまちづくりは該当地域だけの問題ではないと思う。法線を決める時には該当地域の個別課題みたいな話として進んできたが、ここへ来るとそんなわけにはいかないというのが皆さんの意見なので、八千浦区としての取り上げ方、或いは議論の進め方について、この協議会が議論を進めて問題提起をするのも一つの課題だと思うので、意見があれば出していただきたい。

【大島副会長】

坂詰委員と羽深委員の意見は考えもつかないような意見で少し呆気にとられた。でも川が造られることによって、河川敷の有効活用や橋の近くに道の駅等の商業施設を造るという考えもあるなと思った。実際に頭だけで考えると分からないので他の地域での成功事例を幾つか探してもらえると、皆さん斬新な意見に繋がるのではないかと思った。

【仲田会長】

それでは、今までの皆さんの意見を整理させていただく。

1つ目は、直江津港を利用する事業者、釣り人や地域住民等も含めて安心安全のため

の直江津港港湾区域の交通規制や道路の管理について。

2つ目は、引き続き海岸線のごみ拾いについて、提案型で地域住民やボランティア団体、個人が参加しやすいような仕組みづくり。海岸を利用する人たちも巻き込んで、いつでも誰でも参加できる仕組み作りがないか。

3つ目は、海岸線特有の強風後に砂が溜まるが、安全な道路確保のために、その砂をどう除去するか。今、風が吹いた後に海岸線に溜まった砂は海側に除去するだけなので、風が吹くと、またそれが道路上に戻ってきてしまう。そのあたりも抜本的にどうするか。

4つ目は、保倉川放水路の法線が決まりつつあるので、これに合わせた八千浦区のまちづくりをどうするか。若者が定着できるように、或いは若者がここに住み続けられるようなまちづくりを少し検討していく。

以上の4点だったかと思う。

今後、事務局とも相談するが、これらの中から自主的審議事項のテーマとして、次回あたりに少し整理をしていきたいと考えるがいかがか。

(異議なし)

では、そのようにさせていただく。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

本日いただいた意見を事務局で整理させていただき、次回の協議会にお示ししたいと考えている。

続いて、次回の協議会についてだが、現在、諮問等の案件はないので、会長と日程調整させていただき、決まり次第、皆さんへご連絡させていただく。

【仲田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。